

平成27年度研究成果報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	34	都道府県・ 指定都市名	広島県	研究課題番号・校種名	3(4) 高等学校
				領域名	ESD
研究課題	<p>新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(4) ESD を学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	<p>ひろしまけんりつみつぎこうとうがっこう 広島県立御調高等学校 (174人)</p>				
所在地 (電話番号)	<p>広島県尾道市御調町神 204-2 (0848-76-2121)</p>				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<p>http://www.mitsugi-h.hiroshima-c.ed.jp/</p>				
研究のキーワード	<p>「教科指導」、「総合的な学習の時間」、「地域実践」、「ESD 指導体制」、「ESD 指導モデル」</p>				
研究成果のポイント	<p>○学校全体で組織的に ESD を実践する体制の確立。</p> <p>○各教科、総合的な学習の時間、地域での実践の3つを柱とした本校独自の ESD モデルの確立。</p> <p>○本校での ESD を通して、本校生徒が御調地域の持続可能性を意識して、地域の持つ課題の解決策を多面的に考え、その解決に向けて主体的に行動する態度の育成。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

各教科等における ESD 年間指導計画を作成し ESD の視点を踏まえた指導方法の工夫・改善を行うことで、生徒に多面的・総合的に捉える力及び協同的に課題解決していく力を育成する。

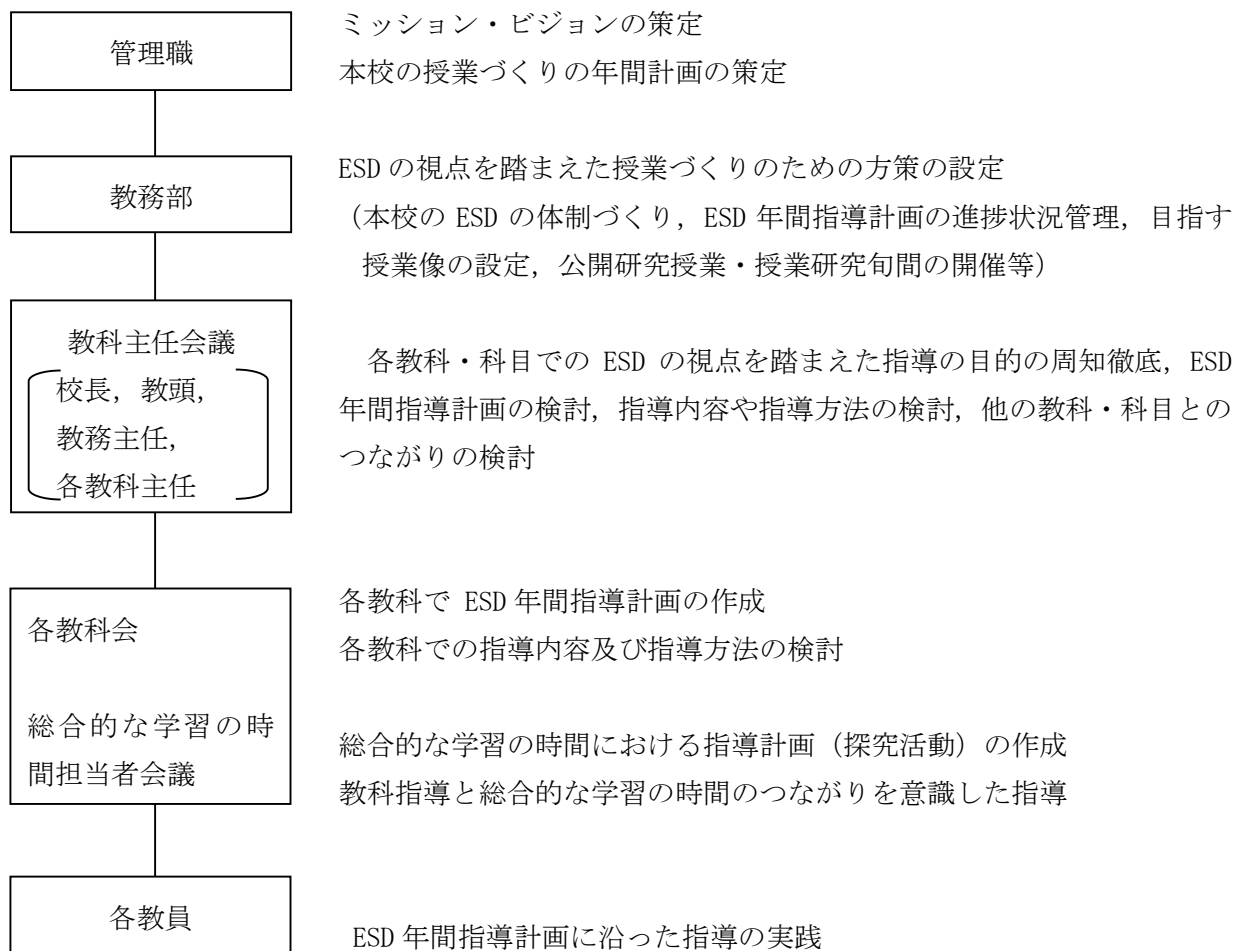
(2) 研究主題設定の理由

本校は、平成25年度から、主に第2学年の生徒が総合的な学習の時間等を利用して、御調地域の「道の駅」及び福祉施設、幼稚園、保育所等と連携して、地域活性化のための方策を考え実践してきた。この取組には、地域からは高い信頼と大きな期待が寄せられているが、実践を通して、本校生徒には、特に次の2つの力の育成が急務であることが明らかになった。

- ① 生徒は、一部分だけを捉えて感情的に物事を判断する傾向があり、冷静に吟味させるためには、多面的・総合的に捉える力を育成する必要があること。
- ② 地域の人々と連携して活動している生徒の状況から、単に活動を共にすることだけでなく、その活動の目的や意義を明確にして、地域課題の解決に向けた実践力を育成する必要があること。

本校では、各教科が、ESD の視点を踏まえた授業づくりを計画的に行うとともに、総合的な学習の時間や地域活動とのつながりを明確にして授業を実施することで、生徒に多面的・総合的に物事を考察する力と協同的に課題解決する実践力を育成できるのではないかと考えた。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成26年度	<p>(4月) 各教科のESD年間指導計画の作成</p> <p>(7月) 先進校の視察(愛知県立豊田東高等学校)</p> <p>(9月) 本校における各教科とESD指導内容とのつながりを整理</p> <p>(12月) ESDの視点を踏まえた教科間とのつながりを意識させた授業(生物)</p> <p>(8月~2月) 教科指導で, ESDの視点を踏まえた授業を実施</p> <p>(3月) 指導の評価を行い, 次年度に向けた改訂</p> <p>年間を通して地域活動での実践</p>
平成27年度	<p>(4月) 各教科のESD年間指導計画の作成, 総合的な学習の時間とのつながりをより明確化</p> <p>総合的な学習の時間の探究活動での手立てについての共通理解</p> <p>(5月) ESDの視点を踏まえた教科指導におけるルーブリックの作成</p> <p>(10月) 先進校の視察(秋田市立秋田商業高等学校, 岡山県立林野高等学校)</p> <p>(6月~1月) 教科指導で, ESDの視点を踏まえた授業を実施</p> <p>(3月) 指導の評価, 次年度に向けた改訂</p> <p>年間を通して地域活動での実践</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 教科指導での ESD
- イ 総合的な学習の時間での ESD
- ウ 地域実践での ESD

(2) 具体的な研究活動

ア 教科指導での ESD

- ・ 年度当初に、各教科で、年1回は全ての教員が ESD の視点を踏まえた授業を行うこととし、ESD 年間指導計画を作成した。また、その際に、総合的な学習の時間のテーマとなっている「御調の5宝」とのつながりを明確化するとともに、ESD を通して身に付けさせたい能力・態度を明確化した。そのことで、各教科と総合的な学習の時間の学習内容のつながりが明確になり、ESD という視点で組織的に授業を実践することができた。
- ・ 各教科と ESD 指導内容とのつながりを、①理解レベル・思考レベルでの内容を扱う教科（教科の学習内容を理解し、思考させることが ESD の視点につながる、「地歴・公民科」「理科」「保健体育科」「家庭・福祉科」「商業・情報科」）、②技能レベルでの内容を扱う教科（教科の学習で技能や思考方法を習得させることが ESD の視点につながる、「芸術科」「家庭科」「商業・情報科」）、③情意レベルでの内容を扱う教科（教科の学習が ESD を考える動機付けとなる、「国語科」「数学科」「外国語（英語）科」）、の3つに分けて整理して取り組んだ。
- ・ 教科間のつながりをより明確にするために、複数の教科にわたって ESD にかかわる共通のテーマを設定し、それらを教科固有の視点で取り上げて取り組んだ。その際、ある程度共通の枠組で作成したワークシートを活用した。
- ・ 各教科の授業では、総合的な学習の時間で取り扱う題材を生かした学習活動の展開や、定期考査等の評価問題作成が行われるようになった。

イ 総合的な学習の時間での ESD

総合的な学習の時間では、生徒に「御調地域の活性化」という大きなテーマを与え、その中で「御調の5宝（福祉・医療、ソフトボール、文化・伝統、自然、食物）」を生かした活性化策を探究させる学習を行っている。課題の設定では、生徒が「5宝とのかかわりでどんな地域課題を抱えているか」という枠組みの中で、どのような課題があるのかを明確にし、その課題が具体的に実現可能な活性化策を提案するための探究活動に値するものになるまで追究させた。情報の収集では、フィールドワークやアンケート調査、聞き取りなどを行い、必要な情報を多方面から収集させた。整理・分析では、必要な場面で教員が分析を突き詰める問いを生徒に投げかけることで、生徒が自ら分析する視点を身に付けるように工夫した。また、活性化策を提案する段階では、その解決策が地域にとって本当に価値あるものかどうかよく吟味させた。

ウ 地域実践での ESD

最寄りの道の駅での活動を毎月継続的に行っており、このことが最寄りの道の駅が地方創生の拠点形成する重点道の駅に選定されるのを後押ししたことから、道の駅と連携した取組は一層活発化している。2年目からは生徒自身が活動の価値を認識した結果、活動の幅を広げ、これまで道の駅周辺で留まっていた活動が町内の広範囲にわたるようになったとともに、道の駅以外の地元の人々や尾道市役所とも連携して解決策の実践に取り組んだ。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

○ 組織的な ESD 実践体制の確立

本研究では、ESD の視点から、各教科と総合的な学習の時間とのつながりを明確にするために、年間指導計画作りから始めた。教科と ESD 指導内容とのつながりを明確にすることで、教科指導での ESD が取り組みやすくなり、学校の全ての教員が ESD を理解して実践することができると考えたからである。また、複数の教科にわたって ESD にかかわる共通のテーマを設定し、それらを教科固有の視点で取り上げた取組では、共通の枠組で作成したワークシートを活用した。これは、職員の意識を高めるうえで効果的であり、学校全体の組織的な取組につながった。

○ 各教科、総合的な学習の時間、地域での実践の 3 つを柱とした本校の ESD モデルの確立

本研究を通して、教科学習、総合的な学習の時間、地域実践の 3 つの柱で ESD を進める本校独自の「ESD モデル」を確立することができた。教科学習では、多くの科目で、総合的な学習の時間の取組を一場面として設定した学習活動を取り入れており、生徒は総合的な学習の時間と教科学習の関連性を意識するようになってきている。総合的な学習の時間では、生徒が自ら課題を設定することを最重要視し、教員は課題発見のファシリテーターとして接することに努めた。本年 11 月に実施した、平成 27 年度広島県高等学校学力調査での生徒質問紙で、「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます」という質問に対して、本校 2 年生の生徒の 89% が肯定的な回答をしていることから、生徒は自ら課題を設定し、その課題に対する探究活動に取り組んでいるという実感が持っていると判断できる。このことから、生徒に、御調地域の持続可能なまちづくりに主体的に取り組もうとする態度が育成されたのではないかと考えられる。

※ 多くの生徒が総合的な学習の時間の振り返りシートの中で、「いろいろな人の立場で考えることができるようになった」「自分は何のためにするのかということを考えるようになった」と記述している。探究活動では、当初は 1 人の生徒の考案したものに同調する形が多く、教員が質問を投げかけて追及させていたが、途中から生徒同士で「本当にそうなのか」等の質問をして追及するようになった。また、以前は高校生が実態を一面的に捉えて考えた改善策を実践するに留まっていたが、地域の実態に基づいた課題を発見したり、地元の人々の要望等を加味して多面的に考え、生徒自身が地域の担い手という意識を持って主体的に活動したりする姿から、本校生徒に育成したい力の育成につながっていると捉えている。

(2) 課題

○ ESD を通して身に付けさせたい能力・態度の形成的評価の方法の確立

生徒の記述やアンケート等から、生徒の変容を見取ってきたが、授業における各段階での形成的評価の方法については、生徒同士の相互評価を取り入れるなどして、本校の取組にふさわしい形成的評価の手法を確立する必要がある。

(3) 指定期間終了後の取組

次年度以降は、これまでの本校での組織的な ESD の取組を継続していくとともに、ESD で身に付けさせたい能力・態度の評価シートの作成を進めていく。